

〈コメント〉

後藤報告へのコメント

吉田 伸之

環境史や林業史などには全くの素人であるが、以下、三つに分けてコメントをさせていただきます。

1 前提——シンポジウム「問題提起」について

今回のシンポジウム企画にあるような、「都市と自然のあり方」から「都市と周辺領域の関係を考察する」というのは、都市に軸を置き、周辺域を都市存立の環境条件として従属的に捉えるかのようにも受け取れる。そこでは議論の前提として「斎藤二〇一四」が肯定的に引かれている。本書は、問題の所在や仮説の提示について一定の意義を有するのであるが、基礎にあるべき実証がゆるい、あるいはほぼ不在であり、社会構造の実態に関わるオリジナルな実証はほとんど見あたらない。こうした、緻密な歴史分析を基盤としない「論」は空しいと考えるが、企画者側は本書のどこを評価したのか。

また問題提起にある「近世・近代における都市と周辺領域の関係を考察する」とし、これを開発や環境から捉えよう

とする企図のようである。しかし、こうしたアプローチは都市と「周辺領域」との関係の総体を見る一つのとっかかりではあるが、全体ではありえないことに留意すべきであろう。仮に今回の個別報告の成果が、「環境経済史」などへ回収されるに留まるのであれば問題である。

2 後藤報告について

後藤氏による岩槻藩房総分領に関する研究は、長期に亘る現地での史料調査を基盤とするオリジナルで独創的なものである。そこでは、氏による房総の海産物をめぐる生産や流通に関する研究成果との比較検証が行われ、そこに類似する構造の特質を見る点が注目される。今回の報告では、当該対象における薪と炭の生産・流通をめぐる相互関係や、相剋する局面、また一八世紀末以降の、炭生産の拡大とその背景を抽出したことが重要な成果であろう。しかも氏の方法には、全体史への志向が明らかに見て取れる。

報告に関する質問は下記の点である。

- ①筒森郷奥山御林と近隣村落の近世初期の本源的な有り様を、どのようなものと想定しているか。そして、氏の研究が明らかにしてきた一八世紀以降の展開動向とつなげてどのようにスケッチするか。
- ②史料16などに出てくる「炭焼職人」について。かれらは一般の百姓とはことなる專業者集団であろうか。また、村を超えた広域的な結合を持つのか。
- ③岩槻藩房総分領にとって、養老川は舟運ルートとして「大動脈」であるとしながら、一方では、その上流部分における流通機能の脆弱性を指摘するが、矛盾しないか。
- ④他の山里や林業地帯との比較を念頭に置くと、奥山御林周辺の村々では、薪・炭以外にどのような産業があったかを知りたい。

⑤一八世紀末以降、当該地帯では、御林と百姓山ともに「炭焼立」へと展開することが実証された。こうした動向の背景として、i久留里藩領域を経て小櫃川から木更津へと搬送するという点で、これら岩槻藩領の炭も「久留里炭」ブランドで扱われた可能性が大きいこと、ii薪生産が低迷するに至るのは、江戸近郊地帯に広く深く薪採集域が密に展開すること、などを想定する必要はないか。

⑥林業史研究において提起される「林業の経済的構成概念」論、「山村豪農」論「加藤二〇〇七」などとの擦り合わせ、あるいはそれらへの批判はどのような点になるか。

3 自分なりのアプローチ

評者がかつて、千葉市史や千葉県史の編纂に関わったとき、房総の村々と江戸との関係を見る上で、薪炭の生産と流通・消費の問題が重要であることを学んだ。「吉田一九九三・二〇〇七・二〇〇八」。こうした中で、林野「開発」や林業（伐材と薪炭、木工品生産）では、権力による規定性・拘束がその前提、あるいは条件となるが、より重要なのは、産地（山里）における生産構造、物流過程、消費地（江戸など）に及ぶ諸社会の複層的構造を解明することにある、と考えた。構造を形成する諸局面におけるそれぞれの担い手、その担い手同士が形成する「絡み合う諸関係の総和が織りなす広がり」「中野二〇〇三」を分節的に把握すること、こうした視点や方法が重要である。対象とする複雑な素材の全体を、「都市と周辺領域」なる二元的で対立的な構造把握や、森林破壊・保全・再生にかかわる「国家の営為と市場の役割」「斎藤二〇一四」といった「大きな視点」のみで把握することはできない。後藤氏の報告が示した視点や方法は、こうした意味で示唆に富む重要なものと考えている。

【文献】

- 加藤衛披『近世山村史の研究』吉川弘文館、二〇〇七
- 斎藤 修『環境の経済史―森林・市場・国家』岩波現代全書、二〇一四
- 中野隆生『『ソシアビリテ』社会的結合』論の二〇年―歴史学研究会編『国家像・社会像の変貌』青木書店、二〇〇三
- 吉田伸之「野と村」吉田・渡辺尚志編『近世房総地域史研究』東京大学出版会、一九九三
- 吉田伸之「佐倉炭荷主と江戸問屋」『江戸とロンドン』山川出版社、二〇〇七
- 吉田伸之「炭薪にみる江戸と房総」『千葉県の歴史』通史編・近世2、二〇〇八